



百人一步通信 千種版

～「一人の百歩より百人の一步」の社会を作ろう～

第2号 2018年(平成30年)11月

【発行】 今井和夫とともに歩む「百人一步の会」
 【代表】 今井和夫(宍粟市議会 宍志の会所属)
 〒 671-3211 兵庫県宍粟市千種町岩野辺 1065
 ☎ 090-9610-2511
 ✉ tamago@imaifarm.jp

朝晩、かなり冷え込んでまいりました。霜も降りるようになってきました。あの暑かった夏がウソのようですが、季節はめぐり白菜や大根の美味しい季節がやってきました。

『百人一步通信 第6号』では大きな話ばかり書いていますが、この千種版ではもう少し身近な話題を載せていきたいと思います。

千種高校 夏の新生説明会に なんと80名が!!!

今の千種町で頑張っているところの一つに間違いなく千種高校があると思います。夏休みに行われた現中学3年生対象の入学説明会に、定員40名のところへ80名の方が聞きに来たそうです。それだけ関心が高いということ。

先生方も生徒の皆さんも、本当によく頑張っておられると思います。この秋に行われたふれあいフェスタでも、あちこちで千種高校生の活躍がありました。「こんなに地域で頑張っている高校は見たことがない」というよそから来られた方の感想も。千種高原・もみじ祭りでもお茶席を出してくれました。

また、中高合同体育祭、園小中高合同文化祭なども、年々内容が充実し、高校生が千種の子どもたちをうまく引っ張ってくれている姿は見ていてホントに素晴らしいものです。

これも、「千種高校を支援する会」「ちくさっ子を育てる会」「まちづくり推進委員会」をはじめとする地域の皆様や、行政・議員の方々の今までの長い間のご努力が実を結んできた結果だと思います。200円バス通学や給食もそのお陰で実施されました。

今や、在校生の半分以上が千種以外から来ているという状況です。残念ながら、千種に住む子どもの数はさらに減っていく傾向ですが、何とか千種以外から思いのある生徒にたくさん来てもらって、さらに素晴らしい高校になっていくことを願わずにおれません。

校長先生にお話を伺いました。「日頃から千種町内外すべての生徒を地域の子どもとして受け入れていただき本当に感謝しています。生徒たちもそれを感じるので行動に自覚ができてきます。職業体験や講師など、地域の皆様には様々にお世話になり本当にありがたいです。今後も引き続きご支援をお願いいたします。」とのことでした。

ちょうど話を聞きに行った日に、今年からの県の取り組みで初めて導入された遠隔授業の実験が行われていました。和田山高校と千種高校に初めて導入されたそうで、両校の生徒会の生徒たちが楽しそうにモニターを見ながら交流されていました。今後、他校の先生の授業が受けられたり、様々な学校との交流など、ますますの可能性を感じました。

何より、学校を見に行っても、生徒たちは気持ちよく挨拶をしてくれ、掃除も行き届き、とても落ち着いた居心地の良さそうな雰囲気を感じます。

ますます素晴らしい学校になっていくように、地域をあげてみんなで応援していきましょう。



小規模多機能型居宅介護施設の 建設に向けての現状

昨年5月に閉所した「笑顔」に代わる施設の建設が待ち望まれています。

今年の6月に一度事業者を募集したのですが、要件を満たす事業者がありませんでした。

今後の予定としては、先日11月16日に再度説明会が持たれました。そして、来年1月頃に応募の受付、2月頃に選考し、事業者が決定すれば2020年4月1日までに開設をしてもらうという計画だそうです。一宮町も同じ予定で1事業者に開設してもらう計画で進んでいます。

何とか、いい事業者に来ていただければと思います。

～千種拠点づくり～ 来春にはイメージ図が

市民局・センターちくさの建て替え等、昨年から検討委員会を中心に多くの方が関わって検討されてます。当初の計画ではこの秋にもイメージ図ができるはずだったのですが、7月の災害等の影響もあり遅れています。

来年春にはできるのではないのでしょうか。

前にも知らせがありましたように、今の案は、現市民局とセンターちくさを取り壊し今の市民局のところに、一階が市民局、二階がホールや部屋等で建て替える。今の市民局の戸籍・住民票などの窓口は「エーガイヤ」の方に移転し健康福祉課と一本化するということです。

図面ができあがれば皆さんに提示があると思いますので、ご意見等出していただければと思います。

栄養価の下がった今の野菜 50年で1/5～1/20に

先日、野菜生産組合内で有機農業の講師を招いて勉強会をしました。

食品名	栄養素	1951年 (昭和26年)	2001年 (平成13年)	減少率
ほうれん草	ビタミンA	8,000	700	8.8%
	ビタミンC	150	35	23.3%
	鉄分	13	2	15.4%
ニンジン	ビタミンA	13,500	1,700	12.6%
	ビタミンC	10	4	40.0%
	鉄分	2	0.2	10.0%
みかん	ビタミンA	2,000	14	0.7%
	カルシウム	29	16	55.1%
	鉄分	2	0.1	5.0%

(「日本食品標準成分表」文科省
 単位 ビタミンC・鉄分はmg/100g、ビタミンAはμg/100g)

左の表を見てください。1951年から2001年までの50年間でどれだけ野菜の栄養価が下がったか、の表です。

驚きです。

見た目は同じほ

うれん草でも、50年の間にビタミンCは約1/10に、ミカンのビタミンAに至っては1/100以下に、だいたい1/5～1/20に、中に含まれる栄養価が減っています。

とにかく、**今の野菜は昔に比べてビタミン、ミネラルの含まれている量が非常に少ないそうです。**(野菜だけではないですが・・)これが少ないと病気にかかりやすくなったり、あるいは、発達障害などもこれが一因ではとも言われています。



原因の一つは化学肥料の多用です。昔のように、人糞・家畜の糞を畑に撒いたり、あるいは、ワラや草・落ち葉などで堆肥を作ってすき込んだりすれば、それはビタミン・ミネラルの豊富な土になるそうです。そんな土で育つ野菜は甘く栄養価の豊富な野菜になるそうです。そして、**いい土で時期(旬)を守って作れば虫もつかないとか。**ポイントは堆肥ですね。

千種のまちおこしの要は『食』 ～千種に住めば『食』で健康になる!!～

私は千種町のまちおこしの要の一つは『食』だと思っています。**千種に住めば、安全で栄養価の高い美味しいコメや野菜が食べ**



千種小3年生鶏体験

られる。自分で作ることができる。そして、コメ・野菜だけでなく、卵・鶏肉・豚肉・牛肉などの畜産品、味噌・醤油などの調味料、漬け物、梅干し、納豆、お茶、餅、おはぎ、などの加工品、それらを使った総菜・お弁当、・・そんなのがいっぱいあって、地域の中で物とおカネが回る。外から

もそれを求めて人が来てくれる。食は人を呼ぶことができます。リピーターを作ります。姫路から1時間半、充分来ていただける範囲です。夢のようですが昔の当たり前の暮らしです。

今からの千種での起業はこのようなことに絡んだことになってくるのではと思います。(あとは林業です)

自分たちで作って 自分たちで支える

先日、島根県邑南町というところに視察に行ってきました。(「スーパー公務員」とテレビにも出たところです。)そこで言われたことに「過疎になり仕事は減っているが、高齢者が多くなり皆さん年金をもらわれて、地域全体ではおカネは減っていない。それをうまく使ってもらい、回していけば地域でまだまだ雇用が生まれる」と。**「パン屋さんを地域の人が出資して職人を呼んできて**



地域の人で出資して作られたパン屋さん

作った。みんな、自分が作るのに関わったからうまく行くように応援する。自分も買うしお客も呼んでくる。」「そうやって、地域の人が自ら参画しみんなで作っていくことが大事」と。

島根県邑南町は千種よりも過疎が進んだところなので、自分たちで何とかしようという気運がいよいよ作られてきたのだと思います。今は、地域起こし協力隊として来た人で住み着く人が多く、若者の人口は逆に増えているそうです。

そして、地域の人どうしの助け合いがとてもあって、例えばちょっとした建物を建てるのも近所の人何人か来て手伝ってくれたとか・・。

千種でもできそうなことがいっぱいでした。

やはり公的助成も必要

ただ、そんな邑南町でも耕作放棄地はどんどん増えているそうです。私は、こうした住民自らの努力と同時に、国・県・市町による農地・農業への継続した助成がなければ、やはり地域や農地は守りきれないと思います。

百人一步通信第6号に『反当10万円!!』と書いてます。無茶なようですが、ホントは全然無茶じゃない。以前あった「生産者米価」の買い取り価格がそれくらいの補助金をもらうのと同じくらいになるのです。

そんな国への要求や、**宍粟市レベルでも福元市長が、耕作放棄田対策として、宍粟北みどり農林公社に助成して雇用を作ろうとされています。それをどんどん進めてもらい、千種支所を作ってもらようようみんなで応援していきましょう。**

もし国による反当10万円の制度が確立すれば、もう日本全国の田舎は廃墟になることはありません。**限界集落なんて言葉もなくなります。**人口は減るけどずっと続く町になるのです。1兆円あればできることです。全然不可能なことではありません。

まちづくり推進委員会を中心に 千種は千種で頑張る道を作ろう

宍粟市はやっぱ広すぎます。山崎と千種ではいろんなことが違います。千種としてはやはり『**自分たちのことは自分たちで考え動いていく**』そんな気持ちが大事だと思います。

その中心の一つになるのが、千種まちづくり推進委員会ではないかと思っています。これも正式にできて5年半が経過しました。役員の皆さん本当に頑張られてきましたが、「組織も硬直化して来た」と新しい人に入ってもらうよう、また動き始められています。

千種は小さな町ですが、それでもいろんなところで頑張られている方はいっぱいおられます。みんなで力を合わせ連携して、夢のある町を作っていきましょう。

田舎だからできる素晴らしいことも一杯です。



中島自治会敬老会の一コマ (中島公民館にて) 業者に来てもらって回転寿司をされました。